

温かいご支援に感謝いたします

リードケミカル株式会社 株式会社内山精工 大沢内科クリニック
 米原商事株式会社 学校法人富山音楽院 山元醸造株式会社
 可西舞踊研究所

網谷 ヒデ子	安念 邦夫	五十嵐 大霧	五十嵐 信夫	池田 瑛子
石間 照子	稲 葉 実	井上 五三男	岩城 静子	大沢 すみ
大成 勝代	岡田 睦子	小澤 眞琴	重松 秀子	加藤 徹
金森 敏子	栗谷 恭三	栗谷 良野	古賀 盛大	酒井 和佳子
島 美恵子	島崎 清孝	島田 典故	進士 京子	関野 節子
大門 清廣	高松 眞	梅野 寿栄	中川 光子	中川 洋司
中田 勝代	中土 昌則	西野 正彬	濱四津 董子	林 攻
平井 和輝	平井 きよみ	平井 岑生	藤原 節子	細川 キヨミ
松本 喜二	丸山 美由紀	宗 景 昭	村井 俊夫	本木 英子
山辺 美嗣	山本 郁夫	山本 一誠	利田 みさき	和田 朝子

(50音順・敬称略)

〈次回公演予定〉
【第4回】ニューイヤー ガラコンサート
 2015年2月1日(日) 14:00 富山県教育文化会館

～富山県オペラ協会「維持会員」ご入会のお誘い～

〈文化で富山を元気に!〉に向け、皆様のご理解と、温かいご支援を賜りたく、
 下記要綱にてご賛同いただきたくご入会をお待ちしております。

〈維持会員〉年会費(4月～翌年3月)

〈個人会員〉1口 / **1万円**〈何口でも〉

〈法人会員〉1口 / **3万円**〈何口でも〉

●公演プログラムに「ご芳名・貴社名」を記載させていただきます。 ●公演のお席を優先予約させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ

富山県オペラ協会事務局 Tel/Fax 076-444-7851
 〒930-0856 富山県富山市牛島新町3-29-401 伊東康孝 方
 E-mail:toyamaopera2012@gmail.com

編集・発行 **とやま舞台芸術祭実行委員会事務局**

〒930-0096 富山市舟橋北町7-1 富山県教育文化会館内 (一社)富山県芸術文化協会
 TEL.076-441-8635(内線123) FAX.076-442-4635 E-mail:info@tiatf.or.jp URL:http://www.tiatf.or.jp

〈とやま舞台芸術祭2014〉
 総合プロデューサー:小泉 博



2014.11.24 14:00開演
 [月・振休] 富山市芸術文化ホール〈オーバード・ホール〉

〈主催〉とやま舞台芸術祭実行委員会、公益財団法人富山市民文化事業団
 〈共催〉一般社団法人富山県芸術文化協会、富山県、公益財団法人富山県文化振興財団、富山市、南砺市、北日本新聞社
 〈後援〉富山県オペラ協会、富山県洋舞協会、富山県舞台技術研究会、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会、とやまソフトセンター

Die Zauberflöte

魔 笛

富山県オペラ協会【第三回公演】
安念千重子プロデュース
オペラ公演
〈全日幕/日本語上演〉

〈プロデュース〉安念 千重子
 〈指揮〉坂本 和彦 〈演出〉小栗 純一
 〈演奏〉富山シティフィルハーモニー管弦楽団
 〈バレエ〉可西舞踊研究所 〈合唱〉富山県オペラ協会合唱団

Cast 〈キャスト〉

ザラストロ：宇野 徹哉
 タミーノ：水船 桂太郎
 パミーナ：平井 香織
 夜の女王：倉本 絵里
 パパゲーノ：竹内 雅拳
 パパゲーナ：加藤 恵
 弁 者：渡辺 洋輔
 モノスタス：伊東 康孝

武士1・僧侶1：近藤 洋平
 武士2・僧侶2：門田 宇
 侍 女 1：碓井 絵美
 侍 女 2：安田 裕美
 侍 女 3：吉田 碧
 童 子 1：四津谷 泰子
 童 子 2：谷村 清香
 童 子 3：前谷 杏奈

Staff 〈スタッフ〉

演出補佐：加藤 徹
 舞台美術：久郷 秀男
 照 明：渡部 佳子
 衣 装：加藤 與志子
 ヘアメイク：星野 安子(フォレスト)
 衣裳協力：横浜シティオペラ
 小 道 具：ザ・スタッフ
 音 響：サウンドクリエイティブ
 舞台監督：渡辺 真二郎(ザ・スタッフ)
 日本語訳詞：小栗 純一

〈音楽スタッフ〉
 副 指 揮：福田光太郎
 合唱指揮：白銀 裕子
 コレペティ：丸山美由紀
 稽古ピアノ：森田 夏海
 内田 陽子
 内橋 綾野
 制作補佐：串田 淑子
 〈制作スタッフ〉
 加藤 與志子 護摩堂 若
 山本 一誠 谷村 清香
 伊東 康孝 森田 夏海
 丸山美由紀 廣本 好恵
 白銀 裕子 南出 ゆかり

〈管弦楽〉

富山シティフィルハーモニー管弦楽団



1stVn.	宮本 範子 松下 タエ	黒田 悠莉 矢野 紗希	田 中 緑	辻 久直	名執 純子	又場 龍大
2ndVn.	松 下 亮 沼田 典子	朝木 晴美 原 朝子	荒木 祐士 吉澤 真弓	河 原 毅 米澤 由佳子	塩崎 章子	高野 祐花
Va.	前川 仁志 松島 真二郎	大森 祐子 安村 美佳	河原千佳子	久保 悠希乃	篠原美奈子	藤井 優哉
Vc.	堀田 五月	石井 久美	岡 田 彰	島田 育子	新町 栄一	西谷 英輔
Cb.	藤島 晃彦	長谷 英寿	吉澤 克仁			
Fl.	摺出寺 敬子	伊藤 ひでみ				
Ob.	保科 浩一	北 岡 明				
Cl.	大田 昌子	住吉 友紀子				
Fg.	牛 嶋 裕	篠崎 秀一				
Hr.	坂 井 禎	中島 浩史	花房 奈央子			
Tp.	古井 清紀	荒野 晃代				
Tb.	大田 昭男	沼田 典明	熊木 雅之			
Perc.	高本 篤志					
Celesta.	丸山 美由紀					



〈バレエ〉
可西舞踊研究所



松下美規



片岸香里



古井晴香



横田ほの華



齊田朱李



清水真莉愛



坂本来羅



田辺 怜



越後 彩香



吉竹 柚月



菅原 麻希



牧江 梨桜



山崎 凜子



宮川 理衣



石村 一花



開 結子



大野 日和



大木 郁乃



伊藤 聡美

アンダーキャスト

ザラストロ：山本 一誠 タミーノ：近藤 洋平 パミーナ：安田 裕美 夜の女王：加藤 恵
 パパゲーノ：門田 宇 パパゲーナ：前谷 杏奈 侍女 1：橋日奈子 侍女 2：碓井 智子
 侍女 3：護摩堂 若 童子 1：長谷 和美 童子 2：小林 彩乃 童子 3：齊藤 明菜

〈合唱〉

富山県オペラ協会合唱団

浅水 清見	浅水 みき代	荒井 弘美	飯田 三千代	井内 学	石野 雅子	奥野 知子
金川 豊樹	河合 和子	北川 博貴	北宮 英明	木矢村由喜子	熊倉 理子	齊藤 明奈
斉藤 博美	篠田 彰子	下村 正治	庄司 慧士	庄田 浩二	杉本 雪子	武内 博康
竹林 史貴	但田 敏幸	塚原 丈裕	東海 廉之	飛田 祥子	中川 愛乃	中嶋 美鶴
中筋 輝美	中野 裕	中野 多賀子	中山 勉	西田 一美	橋日奈子	藤森 茂男
堀 孝子	本郷 友一朗	本多 利春	牧野 正孝	松崎 加代子	水上 克美	水木 節子
翠田 琢志	蓑口 睦子	村椿 尚美	森田 節夫	森田 礼子	森谷 一恵	安居 正博
柳原 隆	山崎 修次	山下 誠信	山下 文子	山田 靖	横山 庄三	

祝 辞



富山県知事
石井 隆一

このたび、とやま舞台芸術祭2014「オペラ公演・モーツァルト魔笛」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

「とやま舞台芸術祭」では、これまで、優れた舞台芸術の創造と交流をめざして、県内芸術文化団体等による数多くの素晴らしい舞台が繰り広げられてきました。

今年度は、9月に、洋舞公演「全日本地域選抜モダンダンス・ガラ・イン利賀2014」が演劇の聖地として世界的に知られている利賀芸術公園で開催されるとともに、11月3日には、本県と中国遼寧省との友好県省締結30周年を記念する「遼寧バレエ学校・田中バレエ研究所合同公演」が開催され、ご来場の皆様に大きな感動を与えたところです。

さて、現在の我が国は、東日本大震災からの復興、経済の再生をはじめ、多くの難しい課題に直面していますが、こうしたときこそ、経済面の活力はもとより、芸術文化に親しむことで、人々の心、精神を元気に、豊かにすることが大切です。

このため、県では、総合計画や一昨年に改定した「新世紀とやま文化振興計画」に基づき、芸術文化の振興を通じた「元気とやま」の創造に、全力を尽くしているところです。

幸い、本県では、いよいよ来年春に北陸新幹線が開業します。県外客の増加を見据え、本県が誇る美味しい食べ物や豊かな自然などを全国へPRすることはもちろんですが、文化の面でも、富山に行けば多彩で素晴らしい芸術文化があると感じていただけるよう、全力で取り組んでまいりたいと考えています。

こうしたなか、このたび日本のオペラ界の第一線で活躍されている錚々たる皆様をお迎えし、富山県オペラ協会の第3回公演として「オペラ公演・モーツァルト魔笛」が上演されますことは誠に意義深いものがあります。

オペラは、音楽に演劇や絵画の要素も加わり、歌唱、演奏、舞台美術、照明などが一体となって、一つの舞台を創りあげる総合芸術です。

本日上演される「魔笛」は、そのドラマチックな物語と美しい旋律により、モーツァルト晩年の最高傑作と言われ、世界中で愛され続けている不朽の名作であり、安念千重子先生のプロデュースによる本公演は、必ずやご来場の皆様方を魅了し、深い感銘を与えるものと確信しています。

終わりに、開催に尽力されました一般社団法人富山県芸術文化協会をはじめ関係の皆様方に深く敬意を表しますとともに、本公演のご盛況と皆様方の今後ますますのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈り申し上げます。



「魔笛」との出会い

忘れられないアリアとウィーンフィルの演奏

とやま舞台芸術祭総合プロデューサー

小泉 博

1972年に富山県芸術文化協会が産声をあげた翌春、私は狐狸庵先生こと芥川賞作家の遠藤周作先生や在京の演劇人と一ヶ月間「ヨーロッパ演劇の旅」に出掛けた。

はじめて見聞したヨーロッパの舞台芸術は、田舎者の私にはあまりにも強烈でカルチャーショックの連続だった。

当時、私がお手本にしていた東京の舞台の、そのまのお手本がヨーロッパの舞台であったことを知らされた旅行でもあった。

ロンドンの演劇も刺激的であったが、ミュンヘンで観たイオネスコの「マクベット」は、不条理劇の面白さを味わった最初であり、ウィーンでは生まれてはじめて本格的オペラの鑑賞をした。

そのオペラがこの度、富山県オペラ協会が第3回公演として披露するモーツァルトの「魔笛」なのである。もう42年も経つ昔のことだが、豪華な舞台セットがダイナミックに次から次へと転換されるのに目を瞠たことや、夜の女王とパミーナ役の魅惑的なアリアとウィーンフィルの素敵な演奏がいまだに忘れられない。

「魔笛」の後、パリのガルニエのオペラ座で観たのが「ラ・ボエーム」だが、あれ以来すっかりオペラの魅力に憑りつかれてしまった。

オペラの名作の殆どが悲劇だが、希代の天才モーツァルトだけは、喜劇で史上に燦然と輝くオペラを残した。このことはオペラ好きだったら誰もが知っていることである。

ヨーロッパの文化が爛熟したロココ時代末期は、官能の18世紀ともいわれた時代故に「フィガロの結婚」や「ドン・ジョバンニ」のような、お色気と笑いの筋立てによるモーツァルトの不滅の名曲が生まれたと教わった。

前述のお色気が前面に出たオペラと異なり「魔笛」はメルヘンチックである。

物語りの展開は奇想天外で、波乱万丈の結末は、愛と救しのメッセージが確と伝えられ、健全なオペラとして親子で楽しむには持ってこいの作品であろう。

演出に日本オペラ界実力派として定評ある小栗純一先生を迎え、指揮は「フィガロの結婚」「ヘンゼルとグレーテル」で素晴らしい指揮をして下さった坂本和彦先生が、引き続き今回も担当して下さい。

富山県オペラ協会安全千重子会長を中心とした、そうそうたるスタッフ・キャストに加え、今春、全国現代舞踊コンクール「群舞」で第1位に輝いた可西舞踊研究所の協力出演による「魔笛」が、とやま舞台芸術祭オペラ公演として行われる。

私は胸を熱くし、わくわくして幕開きを待っている。

(一般社団法人 富山県芸術文化協会名誉会長)



《弁者》渡辺 洋輔

1985年射水市生まれ。呉羽高校普通科音楽コース、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ピアノを山崎道子、平井文二郎の両氏に、声楽を黒崎隆憲、長谷川颯の両氏に師事。2009年富山県新人演奏会にて富山県知事賞、北日本新聞社音楽奨励賞を受賞。数々のオペラや宗教曲のソリストを務め研鑽を積む。ヴェルディやドニゼッティ、ペリーニ等のイタリアものを中心に演奏している。現在、高岡第一学園高岡第一高校教諭。



《武士1・僧侶1》近藤 洋平

横浜国際音楽コンクール声楽部門一位、大阪国際音楽コンクール声楽部門二位、イタリア声楽コンクールで最終選考に残る。オペラ「コン・ファン・トゥッテ」のフェランド、モーツァルト「戴冠式ミサ」・ベートーベン「交響曲第九番」のテノールソロなどを唱演。出身地である富山県のクロスランド小矢部や、小杉文化ホールなどでソロコンサートを開催。さらに、原宿・横浜・鎌倉・新潟・彦根にも活動範囲を広げている。現在はクラシックを学んだ経験を活かし、形式に捉われない音楽を求めて活動。「テノールソロ」という形態はもちろん、テノールとバリトンによる男声ユニット「hoBBit」としての活動も期待されている。



《侍女1》碓井 絵美

富山県滑川市出身。富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース、昭和音楽大学音楽学部声楽科を卒業。同大学大学院音楽部音楽研究科オペラ専攻修了。(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部オペラマスターコース修了。声楽を、串田淑子、清水まり、上原正敏、永吉伴子の各氏に師事。平成20年文化庁・人材育成事業オペラ公演 プッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」、平成20年文化庁・舞台芸術の魅力発見事業「オーケストラで紡ぐ美しい日本のうた」、富山県オペラ協会「ニューイヤー オペラガラコンサート」他各種演奏会に出演。藤原歌劇団準団員。富山県オペラ協会会員。ヴォーカルデュオDROPSメンバー。平成26年富山県芸術文化協会奨励賞受賞。



《侍女3》吉田 碧

国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業、公益財団法人日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第32期マスターコース修了。オペラ歌手育成部修了アンサンブル公演「マルタ」(ナンシー)、日本オペラ振興会「第32回新人演奏会」、新潟市芸術文化振興財団「日本新人オペラ歌手デビューコンサート」、第27回多摩市民第九演奏会にてアルトソリスト等出演。これまでに南出淑子、下原千恵子各氏に師事。藤原歌劇団準団員、富山県オペラ協会会員。



《童子2》谷村 清香

富山県立呉羽高等学校普通科音楽コース卒業。東京学芸大学教育学部芸術課程音楽専攻声楽選修卒業。声楽を串田淑子、清水まり、黒崎隆憲、勝部美智子の各氏に師事。これまでに、詩音の会主催特別企画オペラ「魔笛」にてパヴァーナー役で出演。富山県オペラ協会主催第1回フレッシュコンサート出演。同協会「ニューイヤー オペラ ガラコンサート」にてオペラ「ヘンゼルとグレーテル(ハイライト版)」のグレーテル役で出演。音を楽しむをモットーに、富山県内を中心に活動中。富山県オペラ協会会員。詩音の会会員。



《モNSTATス》伊東 康孝

武蔵野音楽大学音楽学部声楽学科卒業。藤田昌克、北村雅彦、田口道子の各氏に師事。これまでオペラ公演のソリストとして「手古奈」「お小夜」「フィガロの結婚」「ジャンニ・スキッキ」「ジョン・ミョンファン指揮オペラ」ラ・ボエーム」等に出演する。また、「第九」「カルミナ・ブラーナ」等のテノール・ソロを務める他、ジョイントリサイタルを開催するなど、精力的に演奏活動を展開している。富山県オペラ協会では、第1回公演「フィガロの結婚」にバジリオ及びドン・クルツィオ役、第2回公演「ヘンゼルとグレーテル」には魔女役で出演。富山県芸術文化協会奨励賞を受賞。富山県オペラ協会芸術会員、理事・事務局次長。現在、富山県立富山中高等学校教諭。



《武士2・僧侶2》門田 宇

富山県立呉羽高等学校普通科音楽コースを経て、国立音楽大学音楽学部声楽科卒業。国立音楽大学卒業演奏会出演。第77回読売新人演奏会出演。2010年、詩音の会主催特別企画オペラ「魔笛」/パヴァーナー役を務め好評を得る。2011年、初のソロリサイタルを開催。2012年、第2回のソロリサイタルを東京で開催。富山県・石川県・福井県合同企画オペラ「電話」にてベン役を務める。金沢ジュニアオペラスクール新作日本語オペラ「ラジオスターレストラン」にて、演出助手・出演を務める。2014年、北陸初男性ユニット「hoBBit」を結成。また、石川県にて第3回のリサイタルを開催。ジャンルを問わず、あらゆる世代に共感できるような音楽を目指し活動中。



《侍女2》安田 裕美

魚津市出身。愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院声楽声楽領域修了。第5回東京国際声楽コンクール奨励賞、第24回奏楽堂日本歌曲コンクール入選ならびに畑中良輔賞。これまでに「こらもり」ロザリンデ役、「ヘンゼルとグレーテル」ゲルトルート役等に出演。富山県オペラ協会芸術会員、富山県声楽家協会会員。



《童子1》四津谷 泰子

洗足学園音楽大学短期大学を経て、洗足学園音楽学部声楽専攻卒業。二期会オペラ研修所修了。声楽を碓井智子、山根比奈子の各氏に師事。短期大学を首席で卒業し、卒業演奏会に出演。また、定期演奏会にソロで出演。富山県オペラ協会公演「ヘンゼルとグレーテル」(グレーテル)、フレッシュコンサート、ニューイヤーガラコンサートに出演。その他オペラでは、「フィガロの結婚」(パルバリーナ、花娘2)、「魔笛」(童子1.2)、「ドン・ジョヴァンニ」(ツェルリーナ)、コンサートではモーツァルト「悔悟するダヴィデ」ソプラノソロ等を務める。その他ジョイントコンサート等に出演。日本声楽アカデミー会員、二期会会員、富山県オペラ協会会員。



《童子3》前谷 杏奈

富山県出身。洗足学園音楽大学卒業、同大学院終了。2001年 新国立劇場オペラ「夕鶴」の子役で初舞台をふむ。洗足学園音楽大学大学院卒業後、2011年イタリアに音楽留学。帰国後、2014年3月、高岡文化会館で行われた「ラフマニノフの世界」にて、藤岡幸夫指揮の元、関西フィルハーモニーと共演。同年7月には、オーバード・ホールで行われた「東京交響楽団with 富山ミュージズ」にて海老原光指揮の元、東京交響楽団と共演を果たす。現在二期会研修所研修生。富山県オペラ協会芸術会員。

Die Zauberflöte



《指揮》坂本 和彦

東京音楽大学指揮課卒業。三石精一氏に師事。チューリッヒ音楽院へ留学。F.ライトナー、F.エーゲルマン両氏に師事。チューリッヒ歌劇場にて研究員から副指揮を四年半。1986年『三人の女達の物語』でデビュー。以後各団体で活躍。2009年東京芸術劇場でオペラ『ひかりのゆりかご』の指揮・音楽監督を務める。また、同年日本フィルにてヴェルディ『レクイエム』を指揮し、絶賛を得る。(新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京交響楽団等を指揮。) 2009年11月12日、天皇陛下御在位20年、御成婚50年の慶祝行事にて奉祝曲を指揮。2011年10月に富山県オペラ協会の「フィガロの結婚」を指揮。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部講師及び指揮者、東京音楽大学及び大学院、同附属高校講師、日本オペラ振興会会員指揮者、日本指揮者協会幹事及び事務局局長、岐阜県サラマンカホール音楽監督、公益法人としま未来文化財団音楽監督。



《演出》小栗 純一

東京藝術大学声楽科卒業。劇団四季研究生(8期)を経て、現在二期会、青の会、横浜シティ・オペラ各会員。二期会公演『メリー・ウィドウ』のダニロ役でデビュー。『こもり』のファルケ、アイゼンシュタイン、『魔笛』のパパゲーノ、『ドン・ジョヴァンニ』のタイトルロール、『フィガロの結婚』伯爵、『カルメン』のエスカミーリオ、『椿姫』のジェルモン、『トゥーランドット』のピン、『スベードの女王』のエレッキー、『コジ・ファン・トゥッテ』のグリエルモ、『天守物語』の図書之助、『チャールダーシュの女王』のフェリパーチ、『学生王子』のエンゲル博士等、多くのオペラ、オペラッタの主役を務める一方、『マイ・フェア・レディ』のヒギンス教授、『サウンド・オブ・ミュージック』のトラップ大佐、『ファンタスティック』のエル・ヨガ役等、ミュージカルでも主役を務める。また、『第九』や『レクイエム』、『ニュー・イヤーズ・コンサート』での一流オーケストラとの共演も多く、音楽の友ホール「日本歌曲コンサート・シリーズ」での歌唱力は高く評価されている。現在、フェリス学院大学、劇団俳優座他講師。

キャストプロフィール



《ザラストロ》宇野 徹哉

京都市生まれ。京都市立芸術大学・ベルリン芸術大学卒業。京都音楽協会賞・第1回日本シェパード協会国際歌曲コンクール第1位などを受賞。留学中に一時帰国し日生劇場オペラ公演「魔笛」でザラストロ役を演じ絶賛を浴びた。帰国後は活動拠点を東京に移し、二期会や新国立劇場主催のオペラ公演に多数出演。コンサートでも「メサイヤ」「マタイ受難曲」等の教会音楽や「第九」、歌曲の演奏会に多数出演。2008年には帰国20周年リサイタルを開催し高い評価を受けた。また近年はポップスのコンサートにも参加し、新しい音楽の分野を開拓している。合唱指導の分野でも意欲的に活動し、現役声楽家ならではの発声指導やその実践指導を行ない高い評価を受け、関係団体は10団体を数える。現在、洗足学園音楽大学講師、二期会会員。



《タミーノ》水船 桂太郎

国立音楽大学卒。03年『蝶々夫人』ピンカートンで二期会デビュー。その後、二期会『椿姫』アルフレード、『魔笛』タミーノ、『ジャンニ・スキッキ』リヌッチョ等を務めた。スロヴァキア国立コシツェ歌劇場『愛の妙薬』ネモリーノでヨーロッパのオペラデビューを果たす。また国立ブラチスラヴァ歌劇場ガラ・コンサートに出演、在スロヴァキア日本国大使館主催コンサートに出演、スロヴァキア国営放送で放映された。チェコのシレジア劇にて、『真珠とり』ナディールを歌い成功を収める。本年4月、東京二期会公演『蝶々夫人』ピンカートンを再び歌い、その模様はNHK BSプレミアムにて放映された。二期会会員。



《パミーナ》平井 香織

国立音楽大学卒業。同大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。「奥様女中」のセルビーナでオペラデビュー。以後「魔笛」夜の女王、「カルメン」ミカエラ、「夕鶴」つう等を演じる。殊に新国立劇場公演には数多く参加しており、「ラインの黄金」「ワルキューレ」「神々の黄昏」「ジークフリートの冒険」「トスカ」「なりゆき泥棒」「カルメン」「こもり」「エレクトラ」「影のない女」「ピーター・グライムズ」「死の都」など、信頼も厚い。そのほか、小沢征爾指揮「ファウストの劫罰」(ベルリオーズ)、大野和士指揮「ヌシュ・ヌシ」(ヒンデミット)、ダン・エッティンガー指揮「復活」(マラー)、準・メルクル指揮「ヴィーナスとアドニス」(ヘンツェ)等で好演。二期会会員。



《夜の女王》倉本 絵里

北海道北広島市出身。昭和音楽大学を首席で卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所13期修了。文化庁在外研修員として渡英。読売新聞社主催第77回新人演奏会に出演。2008年昭和音楽大学オペラ「夢遊病の娘」リザ役にてオペラデビュー。2009年大学院修了オペラ「カプレーティ家とモンテッキ家」(抜粋)にてジュリエッタ役を好演。同年12月第34回昭和音楽大学「メサイア」サントリーホール公演においてソリストを務める。2013年札幌にて準・メルクル指揮PMFオーケストラと共演。同年9月代々木上原・ムジカーザにて「倉本絵里・巨瀬励起ジョイント・リサイタル」に出演。南出薫、常森寿子、清水まり、Paul Farringtonの各氏に師事。



《パパゲーノ》竹内 雅孝

射水市出身。東京芸大卒。同大学院修了。ハンズオン「魔笛」パパゲーノ役、浅草オペラ「ポッカチオ」タイトル役、富山県文化振興財団「夕鶴」運ず役、富山市民文化事業団「班女」吉雄役を好演。「第九」等の独唱で東京フィル、オーケストラアンサンブル金沢等の共演も多い。柏プリムラ・エ・コール他5団体の合唱指揮者。こもればホール(保谷)うたごえ、クラブツーリズム新宿うたごえ、港北童謡の会(横浜)講師、富山うたごえ倶楽部主宰。富山県オペラ協会参与。JCDA日本合唱指揮者協会会員、実行委員。富山国体開会式式典ソリスト。日本声楽家協会正会員(日本声楽アカデミー会員)。同事務局局長。



《パパゲーナ》加藤 恵

富山県立呉羽高校卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科ソプラノ専攻卒業。第2回高校生のための歌曲コンクール優秀賞を受賞し、イタリアへ短期留学。青少年音楽コンクール声楽部門最優秀賞。富山県高等学校文化連盟賞受賞。平成21年3月に初ソロリサイタルを行う。県内の養護施設などでフロアーコンサートに出演している。これまでに関 定子、鈴木寛一、大島洋子、松本美和子、黒崎隆憲、小松由美子の各氏に師事。富山県オペラ協会、富山県音楽協会会員。現在、黒部市内中学校教諭。



ごあいさつ

富山県オペラ協会名誉会長

浅岡 節夫

皆様 富山県オペラ協会が全力で取り組んで参りました「魔笛」公演によくご参り下さいました。又何かとお力添え下さいました多くの機関に対しまして深甚の敬意を表します。

モーツァルトの後期の四大オペラの中でもこの「魔笛」は最後の作品にあたり、その内容は神秘的でいわゆるセリフの多いジグシュピールに当り、四つ共正歌劇ではなく、滑稽な内容を持つオペラ・ブッフアと呼ばれるものです。王子がとらわれものの王女を救い出し人生の試練をうけて成長するという、いわば冒険ラブ・ストーリーで、やはりメルヘンそのものです。愛すべきパパゲーノの登場は無垢の魅力を感じさせこの物語を引き立たせています。

ちょっと思い出させられるのは、私が1993年丘声会でやった魔笛、ここで童子役で歌ったのはまだ高2の学生で、その中の第一の童子役だった橋本明希さんがダルムシュタット歌劇場で次々と主役を演じ見事にブリマドンナぶりを発揮したこと、又第三の童子役だった在田恭子さんは、パリのオペラ座で活躍中とあって、たのもしい限りです。先日、新築を終えたばかりの中部高校で新しいホールが出来たと云うことで、私達が行ったコンサートで、黒崎隆憲君(丘声会でのモノスタス役)伊東康孝君(今回のモノスタス役)それに私が歌いましたが、ピアノが内田陽子さんと清水香里さんと云う偶然にもオペラ協会の揃いぶみとなり、おまけに弦楽合奏が次々とパパゲーノの名アリアを奏するなど前景をかき立てました。とに角「魔笛」は本当に楽しいオペラです。どうか最後までお楽しみ下さい。



ごあいさつ

一般社団法人富山県芸術文化協会副会長
富山県オペラ協会会長

安念 千重子

皆様、本日は富山県オペラ協会第三回オペラ公演モーツァルト作曲「魔笛」にご来場いただき誠にありがとうございます。2010年発足いたしました当協会も、多くの方々に支えられて四年目に入りました。第一回「フィガロの結婚」第二回「ヘンゼルとグレーテル」に続き、本年はモーツァルト最後の作品、オペラ「魔笛」の公演に挑みます。オペラ公演以外にも、ニューイヤーオペラコンサート、フレッシュコンサートなども定期的に開催し、お互いに切磋琢磨することで、声楽を志す若い人材も徐々に増え、個々に力量を伸ばしておりますことは喜ばしいことと思います。

今回の公演は、富山にゆかりのある人材に加え我が国を代表する方々のお力もお借りして、適材適所の布陣で臨みますので、必ずや皆様にご満足いただける舞台になると信じております。初回公演より続けて指揮をお引き受けいただき、オペラの基礎をお教え頂いている坂本和彦先生。今回新しい角度から演出を引き受けて下さった小栗純一先生。いつも舞台に華を添えてくださる西晴香先生。オーバード・ホールの舞台を創って下さった久郷秀男先生と照明の渡部佳子先生。合唱団およびバレエの皆さん!数えればきりのないくらいの方々の情熱によって 創りあげられる舞台!世の中にこんな素晴らしいものがあるのでしょうか?見果てぬ夢にならぬよう 一步一步それに近づく努力を重ねつつけるのが、私どもに課せられた義務だと思うのです。この日の舞台に携わった全ての方々に、皆様の温かい励ましの思いを、拍手に変えて賜いますようお願い申し上げます。



富山県オペラ協会 公演に寄せて…

指揮
坂本 和彦

1996年10月、私は国民文化祭・富山で、オペラ「お小夜」の公演でお世話になりました。世界に類のない素晴らしい練習場（芸創）と完成したばかりの劇場（オーバード・ホール）に感激しましたことは、つい昨日のように思い出します。

その日から18年余り経ちますが、私が個人的に待ち望んでいました、富山県人によるオペラ団体「富山県オペラ協会」が、2010年に立ち上がったことは、何よりの喜びです。

第一回の「フィガロの結婚」、第二回の「ヘンゼルとグレーテル」、そして今回の「魔笛」と三回お世話になりましたが、一本のオペラを上演するためには、資金的なことは勿論ですが、会員の皆様や、それを応援して下さる方々のご苦勞は、並大抵のことではないと思います。

しかし、その苦勞は、劇場に足を運んで頂きましたお客様に、感動と喜びをお届けするという願いが届くことにより、報いられるものと思います。

そしてこの「富山県オペラ協会」が発展することが、若いアーティストを育て、オペラを媒体とした文化・芸術の拡張に繋がるものと願っています。

また幸いにも、富山シティフィルハーモニー管弦楽団という素晴らしいオーケストラにご協力して頂けることは、他県にあまりない大切な財産であると思います。

この協会が、未永く県民の皆様にあわれ、公演を心待ちにして頂けるお客様で会場が包まれる…！一人のオペラファンとして、これからも応援しています。



〈演出ノート〉

演出
小栗 純一

現在、世界の歌劇場で人気が高く、上演回数の多い作品は、『椿姫』、『ボエーム』、『カルメン』、そして『魔笛』の順番だそうです。このモーツァルト晩年の歴史的名作オペラは、その完成度と芸術性の高さとは逆に、シカネーダーの描いたストーリーは一貫性がなく、一幕と二幕で善悪が逆転する構成は、多くの演出家を悩ましてきました。その難解さ故に、この歌劇をあたかも“秘境オペラ”のごとく上演された公演も数多くあったそうです（事実、主役のザラストロはゾロアスター教の文字を組み替えた…という説もある）。

しかし、やはり私はこのオペラを、男性至上主義に基づく“フリーメーソン”を前面に押し出さず、むしろ子供向きのメルヘンチックな、分かりやすい誰もが楽しめる作品として仕上げたい…と、考えました。そして指揮者と共に、モーツァルトの“復讐や暴力を否定する『愛と赦しのメッセージ』”を少しでも伝えることが出来れば…と、今この作品と向き合って強く感じています。

音楽は時間芸術です。たった一回の本公演を託された責任と重圧を楽しみ、予算と物理的制約の中で、自由な“何でもあり精神”で、演出に取り組みたいと思っています。ご覧頂いた多くの方にお楽しみ頂ければ、この上ない幸せです。

Story

〈あらすじ〉

小栗 純一

幕が上がるとここは、とある国の国王の寝室。自らの死期の近いことを悟った国王は、側近の呪術師に、かつて国王自ら檜の木から作った笛に、魔法の力を与えるべく祈りを捧げるように命じる。そして国王が首に下げている、力と権力の象徴の“太陽の環”を、妻（夜の女王）ではなく、首相ザラストロに譲り与える（これを機に、女王とザラストロの対立は決定的となる）。怒りに燃える女王に、国王は魔力が注入された笛と鈴を与え、間もなくして息を引き取る。直ちにその場を立ち去る女王と侍女、そして娘のパミーナ。しかしザラストロはパミーナを呼び止め、『あちらは夜の世界、そなたは昼の世界に留まるのじゃ』と、こちら側に来るように誘い、説得する。逡巡するパミーナだが、ザラストロに仕えるモノスタスに連れられて、やむなくザラストロの元へ引き取られる。

所変わって、ここは山の中。愛と冒険の旅に出た某国の王子タミーノが、大蛇に襲われて正に危機的状況にあった。そして意識を失った王子を救ったのは、夜の女王の侍女たちであった。彼女たちは、この青年をひと目見るや、失意に打ちひしがれている女王を救えるのはこの青年しかない！と察し、報告を受けた女王自らが出向き、王子を説得し、ザラストロの支配している聖堂へ囚われの身となっている娘パミーナを救出させるべく、向かわせる。

一方、大蛇を倒した侍女たちが、女王に報告するため立ち去ったあと、そこに現れたのが鳥刺しパパゲーノであった。彼は王子が“自分を救ってくれたのはパパゲーノだ”と、勘違いしていることに気がつきながらも、軽い気持ちで

嘘を付き、自らの力を誇示するが、すぐに戻って来た侍女たちに諷められ、罰を与えられる。そして王子タミーノに付き従い、ザラストロの神殿に赴き、パミーナ姫を救出する手助けをするよう命じられる。かくしてタミーノとパパゲーノは、ザラストロの聖地へ乗り込むこととなったのである。

しかし、ザラストロに囚われの身となっているパミーナ本人の口から語られたザラストロの人物像と、タミーノとパパゲーノが実際に面会したザラストロは、その人柄も人格も、夜の女王から聞き及んでいた“悪の権化”とも言うべきザラストロとは、余りにもかけ離れた威厳を持った人物だった。

誤ちに気付いたタミーノは、ザラストロと彼の側近の僧侶の忠告に従い、パミーナと共に自らに試練を課す修業の道へ入る。しかし、快楽主義者のパパゲーノにとっては、その修業の道は余りにも厳しく、抵抗と失敗をくり返しながら、いつしかパパゲーノ自身、本人も気付かぬままに多くのことを学び、経験し、最後にようやく幸せを掴む。

一方、夜の女王は決して黙ってはいなかった。直接敵地ザラストロの神殿に乗り込み、娘にザラストロの殺害を命じる。果たしてタミーノとパミーナ、そしてザラストロの運命は？はたまた夜の女王の邪悪な目的は達せられてしまうのか…？このオペラを見終ったすべての観客は、なぜ『魔笛』というタイトルが付いたかを、最後に知るであろう。